

市長から 市民のみなさんへ



山陽小野田市長 白井 博文

16 『市の木・市の花』の投票と「まちづくり市民会議『市民まつり検討』部会の提言書』について

「市の木・市の花」の投票を行います

市章デザインの決定については前回の広報でお知らせしたとおりですが、引き続きまして、「市の木」「市の花」についても市民のみなさんによる投票を行い、決定することになりました（投票方法など詳細につきましては2～3ページをご覧ください）。なお、候補として選ばれたそれぞれ5種類の木・花は、市内の各種団体、専門家を交えて開かれた選定委員会で選ばれたものです。

合併して1年が経とうとしているにもかかわらず、財政問題などに端を発してか、いまだに「旧小野田市」「旧山陽町」という意識が市民の中に強く残っているように私には感じられます。今回のような市のシンボルを選ぶ過程において、市民の中に一体感が醸成され、市民の気持ちを「前へ 未来へ」とおしすすめていくための貴重な機会になればと強く願います。

また、今回の投票では、山陽小野田の将来を担う市内の小・中学校の児童・生徒にもクラス単位で投票に参加してもらうという、ユニークな試みも行います。教室での投票の様子が夕食時の話題になり、ご家族みんなで投票に参加していただけるようになればたいへんうれしく思います。なお、投票の結果発表は3月21日に開催する合併1周年記念行事の中で行う予定にしています。多くの方のご参加をお待ちしています。

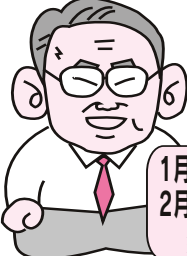
まちづくり市民会議「市民まつり検討」部会から提言書をいただきました

12月21日、まちづくり市民会議「市民まつり検討」部会から、提言書をいただきました。合併前から両市町で行われていた「小野田まつり」「まつり山陽」について、「統合する」か「別に新しいまつりを創造する」という観点を含め、全市あげてのまつりの開催の可否について協議をしていただいたものです。詳細は4ページからの関連記事とともに、その全文を掲載していますので、ご覧になっていただきたいと思います。まとめると（1）「小野田まつり」「まつり山陽」の存

廃については、それぞれの地域が判断すべきもの（2）11月に全く新しいかたちでの市民まつりを、前夜祭は埴生漁港周辺、本祭は市民館周辺で開催できないか（3）具体的な企画推進は、新たに立ち上がる市民参加型の実行委員会に委ねるが「花火に始まり、花火で終わる」などの4つのコンセプトを提案する、といった内容です。

それぞれ産業祭り、天神祭りの流れをくむ「小野田まつり」「まつり山陽」は、歴史も伝統もある素晴らしいものであり、2つの祭りをそのまま残せば良いのではという声も部会ではあがりました。しかし、最終的には、1つの市になったのだから、新市の市民としての一体感が感じられるような盛大な新しい祭りを開催しようではないか、という委員のみなさんの熱意が集約された提言になったようです。

また、4つのコンセプトの中には部会の中でも評価された、「まつり山陽」の前夜祭で行われている埴生の「お祝い夢花火」を一つの柱にした「花火に始まり花火で終わる」や、「大きい、長い、速いなど、日本一と冠のつくものの開催」などがあり、まさに壮大な構想をまとめあげていただいたことに深く感謝します。その実現に向けての具体的な企画と推進は、やがて新たに立ち上がる実行委員会に委ねられることとなりますが、今回の部会の委員のみなさんが積極的にその委員会にも参加し、今回の部会にかかわった熱意を持ち込んで、「どこかいすごいまつり」にしてやるぞという意気込みでいらっしゃることについては、全く頼もしい限りです。折しも、11月議会では、まちづくり市民会議第1号の「市教育施設の使用料」部会の提言書を反映させた条例が可決されました。ともに新しいまちをつくっていかうという市民パワーが実際に条例という形になってあらわれたわけですが、今回の「市民まつり検討」部会の提言書が目に見える形となり、盛大な市民まつりが開催されることを想像するとき、高ぶる気持ちを抑えることはできません。今から、「山陽小野田市民まつり」（仮称ですが）の日が待ち遠しく思われます。



1・2月の 対話の日

1月26日(木) 津布田会館
2月23日(木) 赤崎福祉会館

※19:00から 1時間30分程度です